

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 8月 31日

【評価実施概要】

事業所番号	0171200207		
法人名	株式会社 恵み野介護サービス		
事業所名	グループホーム だんらんこがね		
所在地	恵庭市黄金南4丁目13番地の1 (電話) 0123-35-4226		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年8月27日	評価確定日	平成21年9月15日

【情報提供票より】 (21年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8月 20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人 非常勤 1人 常勤換 6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 12,000円	
			暖房費(11~4月) 8,000円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要 (8月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 84.7歳	最低	71歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	恵み野病院、恵庭南病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな環境にある住宅地の角地に建てられたグループホームで、少人数であるため利用者と職員が仲良く家族的な雰囲気です。居室の廊下壁にその居室の利用者の作品を展示するなど、利用者の希望を尊重した飾り付けがされています。ホーム内の展示も季節感を感じるもので温かみが伝わっています。ホームで飼っている犬と散歩がしたくて歩行訓練を始めたり、一緒に居ることで穏やかな気持ちになり、会話や交流を持つことができます。療育音楽を習得した職員による音楽療法を取り入れたサービスも利用者の楽しみになっています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>災害対策で運営推進会議や地域住民と連携し、一層の取り組みを実現する項目でしたが、年2回の訓練に火災を想定した訓練だけでなく、地震や台風などを想定した災害訓練をしています。地域との協力体制が取れています。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員に自己評価表を配り、全員で検討したものを話し合い、管理者が集約して作成しています。前回の外部評価後に全体会議で取り組みたい課題を話し合い、改善に向け取り組みをしています。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に2ヵ月毎に開催され、地域包括センター、利用者家族、町内会役員等が積極的に参加して毎回、ホームの活動報告や予定、出席者からの多様な意見をまとめ議事録に記載されており、毎回スムーズに開催されていることが確認できます。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議のときに意見をいただいたり、職員は家族の来訪時に声かけをして、意見を聞ける雰囲気を作っています。利用者の家族ごとにホームとの交換ノートを利用し、プライバシーに配慮しながら意見交換をしています。いただいた意見を反映するために職員同士で話し合い、必要な場合は運営法人と相談して改善をしています。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの犬の散歩の際、地域の方々と気軽に話が来ています。ホームの夏祭りにも近隣にチラシを配り、住民に参加していただいています。運営推進会議でも地域包括センターや地域住民の方々に意見をいただいています。災害訓練にも参加していただいております、災害時の協力もいただけるようになっていきます。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営法人の理念はホーム内に掲示されパンフレットにも記載されていますが、地域密着型サービスとしての表現は確認できません。ホーム独自のスタッフ理念にも地域密着の表現は見られません。	○	運営法人の理念やホーム独自のスタッフ理念などの中に、地域密着や地域との交流について明示されるよう今後の取り組みに期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で月例会議に於いて理念を共有し、確認をしています。職員のネームプレートの裏面にもホームの理念が書いてあり、日々確認をしながら取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会行事に参加したり、地域の方々をホームの夏祭りにご案内しています。地域ボランティアに訪していただき、交流を深めています。ホーム犬の散歩の際にも地区センターに寄りたり、近隣住民の方々と気軽に話をしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が個別に作り上げた自己評価を職員全員で相談し、管理者が集約して完成しています。外部評価終了後は問題点を全員で検討し、改善に向け取り組んでいます。		

恵庭市 グループホーム だんらんこがね

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎定期的に開催され、ホームから活動報告や行事予定、事故報告を行ない、出席者からの活発な意見が記載されていることが議事録で確認できました。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課へはホームの行事予定を連絡したり、ホームの問題点の相談をしており、市の生活保護課の訪問もあります。地域包括センターからもアドバイスをいただいています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の受診結果やホーム内で利用者の変化が見られり、転倒した場合は、すぐに連絡をしています。ホーム便りを毎月発送し、職員の移動や行事報告などを行っています。ホームと利用者家族との間で交換ノートを活用しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族ごとに、ホームとの交換ノートを活用し、意見が出しやすいように配慮しており、いただいた意見は迅速に対応しています。重要事項説明書に第三者機関を明示しており、ホームの玄関に意見箱も設置しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職が決まってからは、利用者への影響を軽減するために、他の職員がカバーして関わりを持つようにしています。新人職員に交代した場合は、利用者と一緒に積極的に関わり信頼関係が持てるようにしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受講した職員は、全体会議で研修内容を職員へ伝達し、情報の共有をしています。今年度は2度の外部研修に参加していますが、今後の出席予定が決まっておらず、内部研修の予定も現在ありません。	○	職員を育てる取り組みは、サービスの質の向上に不可欠です。出来るだけ多くの職員が研修受講できるよう、年度計画を立て、個々の職員のレベルアップ、スキルアップにつなげていく機会を確保することを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームを招待し、ホームの夏祭りに参加していただいております。他のホームからのご案内をいただいた場合は、参加する予定であり、今後は相互訪問でネットワーク作りを進めていくことにしています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の方々がホームを見学したり、ホーム側から入居予定者の病院へ面談に行き、馴染みの関係が出来てから、利用開始をしていますが、利用者が事前にホーム体験をする機会はありません。	○	入居予定者には、事前にホームに馴染んでいただくから、安心して利用開始できるよう、体験入居や食事、お茶やすでに入居されている利用者と懇親を持つなど、不安なく馴染めるような配慮が必要です。できるだけホームに来ていただくような機会を作る取り組みを今後期待します。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から調理法や味付けを学んだりしていますが、利用者の出来ないことは率先して職員が行ってしまう場面があり、時間をかけても待ったり、出来るまで見守るということに若干配慮が不足している面があります。	○	利用者に急がせたり、待てなくて職員が行ってしまうことを検討し、利用者のペースに合わせ、出来ることは、時間をかけても達成出来るまで待つことと、本当に出来ないことか見極めて、今後は、出来ないことだけを支援するなどの支え合う関係を築くことを期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とコミュニケーションをとって希望や思いを聞いています。思いを表出しづらい利用者には表情や仕草、声のトーンで把握しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当職員が中心になり、他の職員や計画作成担当者及び家族と話し合い、介護計画を作成しています。出来上がった介護計画は職員が共有しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎に利用者、家族、計画作成担当者が相談してアセスメントを行ない介護計画を作成しています。また、利用者の身体状況の変化がある場合も、速やかに介護計画の見直しをしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助や買物、外食、また町内会行事に参加する利用者の付き添いをしており、希望に応じて運営法人からリフト車を借りて柔軟な支援をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望により、かかりつけ医の受診をしています。歩行困難な利用者は、運営法人からリフト車の援助を受け受診をしています。訪問看護師が日常の健康管理をしており、情報を共有しながら、かかりつけ医の受診をしています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた指針を作成しており、利用者が90歳を超えた段階で、書面にて家族と利用者に確認しています。ホームで終末期まで暮らしたい希望があれば、できるだけ希望通りに対応できるよう、環境整備の検討をしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導や、言葉かけで利用者のプライバシーを損ねないように、心がけて実践しています。個人情報の取り扱いや管理を徹底しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や散歩、入浴の時間、食事のメニューなど、できるだけ希望に沿うように支援しています。		

恵庭市 グループホーム だんらんこがね

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや味付け、食後の下膳を手伝っていただき、職員は利用者と同じテーブルで会話をしながら、楽しく食事をしています。昼食時間に昔の音楽をかけています。利用者に合わせてトロミやキザミを施し、上手に食事ができるよう配慮をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午前・午後と入浴時間を設けていますが、夕食後に入浴する利用者にも対応しています。週2回の入浴が困難な場合や入浴を拒む利用者には、清拭で対応しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意な分野で発揮できるよう、色々な機会を提供しています。野菜作り、刺繍、塗り絵、生け花、カルタ、音楽療法で楽しみがもてるような支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や、買物、外食など利用者の希望によって支援をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の居室に鍵をかけることがなく、玄関ドアも夜間のみ防犯目的で施錠するだけで、それ以外の時間帯は出入りが自由になっています。		

恵庭市 グループホーム だんらんこがね

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の災害訓練で、日中帯と夜間帯を想定した訓練をしています。火災の想定だけではなく、地震や台風などの災害を想定した訓練も実施しています。訓練は町内会にも参加をいただいています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや栄養バランスを配慮した食事を提供しています。食事量は毎食適量を食べたか記載しており、注意の必要な利用者には、水分摂取量も記載しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはオルガンや、剣玉、おはじき、お手玉、かるたなどが置かれています。季節を感じる飾り物もあり、生活感が感じられません。不快な音や光などありません。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、使い慣れた品物が配置され、廊下の壁に自分の作品を飾るなど、利用者らしい暮らしの中で安心して過ごしています。		

※ は、重点項目。